

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大高プロジェクト	階数	地上6F
建設地	名古屋市緑区	構造	S造
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	850 人
地域区分	6地域	年間使用時間	9,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年3月15日
敷地面積	13,570 m ²	作成者	
建築面積	7,149 m ²	確認日	2021年3月17日
延床面積	33,108 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE2.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.9	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.8
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.9	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 建物ライフサイクルコストの低減という視点から、各種省エネルギー技術の導入、メンテナンス性への配慮、更新修繕及びプランの変更に対応しやすい計画として環境配慮に寄与する。具体的には要員の半数近くが日中不在になることを考慮した各種センサー連動の設備機器の採用、防汚性能のある外壁材やモジュール型の個別機器の設置及びメンテナンス動線の確保、間仕切りを極力減らしたプランニング等のハードに関することから、BEMSやピークカット等のソフト関係での配慮も行う。	その他 計画敷地の特性を活かした、あるいは配慮した計画とする。敷地高低差を生かし、2フロアからのアクセスを可能とした。また、3方を高速高架に囲まれた計画地において、用途を明確に分けた2棟構成として、オフィス内環境の向上を図った。	
Q1 室内環境 北、東、南面に庇を設置、業務時間内での直射日光の入りこみを防止、高遮音サッシによる執務音環境の確保。光、人感センサー連動の照明・空調により省エネ性能を確保すると同時に、ドラフトを防止する等、快適性にも配慮する。	Q2 サービス性能 天井高さは3.0m～3.5mを確保、広さ感が実感できるようにすると共に、外部の情報を取り入れやすい開口部計画とする。大きなリフレッシュエリアやコラボスペースを確保し、打合せやカフェコーナーとして多目的に利用。ナチュラルテイストのインテリア計画	Q3 室外環境 (敷地内) 西側の高速道騒音に配慮した建物配置とするとともに、東側公園からの景観に配慮する。敷地内には近隣公園の植生や街路樹との連続性に配慮した緑地エリアを基準の2倍程度確保する。
LR1 エネルギー 屋光利用、通風利用などの自然エネルギーの活用に加えて、高効率で快適性に優れた設備機器を設置する。BEMSの採用やデマンド制御による運用管理に生かし、ランニングコストの抑制を図る。	LR2 資源・マテリアル エコマーク取得材やリサイクル材、有害物質を含まない建材を可能な限り使用する。システム天井の利用など、分解・再利用のしやすい材料を使用する。断熱材、冷媒についてもODP=0のものを使用予定。	LR3 敷地外環境 オール電化により燃焼器具の利用をしない計画とする。卓越風側に見付け面積の小さい建物配置とし風下側への影響を抑える。平日の社員用駐車場を近隣商業施設の休日用駐車場を借りることにより、周辺交通状況に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

大高プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.105504456	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010550446	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.052752228	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.6	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。